



## 迫真のリポートを書くには

「報告文は、体験ルポに始まり、体験ルポにトドメを刺す」とは、いまわたしが思いついたらばかりの格言だが、自分で経験したばかりのできごとを、記憶の新しいうちにきちんと文章にまとめれば、唯一無二の迫力あふれるリポートが必ずできる。さっそく挑戦してみよう。

(平田剛士)

## 感動したら、それがテーマ

あらゆる体験を文章化するなんて、もちろん不可能だ。でも、「これはスゴイ」「こんなハ・ジ・メ・テ」「感動したー」「他のみんなにも教えてあげたい」なんて思ったら、それはあなたにとってリポートする価値のある体験だ。(なお、この演習では、仮にあなたがその体験にちっとも心を動かさなかったとしても、リポートは必ずまとめなければならぬ、当然ながら。だったら自発的に「心を動かされ」てしまおうほうが、青春の貴重な時間を、苦しんで過ごさずに済むと思うよ。)

そんな体験に遭遇したら、まずできるだけ急いで、状況

を記録しよう。メモを取る、ケータイで写真を撮る、録音する。もちろん、脳みそに記憶を刻む。匂い、音、味、色、気温、光線の具合、天候、できるだけ具体的に記録するのだ。

## とにかく、記録せよ

中でも重要なのは、メモだ。目の前の出来事をペンを使って紙に書き付けるといふ動作は、分解すると、まず五感から大脳に情報が送られるところから始まる。脳はどれも重要な情報でそれが重要でないか、判断を下し、重要な情報については、繰り返し情報収集を行なう。続いて、そ

の情報を統合して、大脳皮質が状況の認識を行なう。と同時に、それを過去のデータ(記憶)と照合させて、状況の意味づけが行なわれる。意味がハッキリした状況を、今度はコトバに置き換える。指先に指合が走り、ペンを動かして、インキが紙に定着される、というわけだ。

シャッターボタン一つで機械が記憶してくれるのとは、わけが違う。「現場百べん」は現場捜査の鉄則だが(オマエは刑事か?)、メモを取るとは、同時に、状況をつぶさに観察し、認識することにほかならない。満足ゆくメモが取れたら、そのリポートは九割がた成功する、と私は言い切りたい。

## 自らを客観視するのだ

### こんなリポートは赤点確実

オトナのリポートと、コドモの感想文は違う。

「きょう車椅子に初めて乗りました。歩道にも段差や障害物がたくさんあって、進みにくかったです。障害者にもっと配慮した町づくりが必要だと思いました」

なうんて、もし二〇歳のあなたが書いてきたら、赤点だ。

「神は細部に宿る」とは、あらゆる芸術家やジャーナリストが実感を込めて語る格言だが、あなたが体験したその状況を、可能な限り具体的に詳述することのみ、あなたが伝えたいと思った本質を、読者に伝えることができるのである。そして、それは社会をも動かさう。

そのためには、自らはメディア(筆)に徹しなければならぬ。悲し

い事実を告げよう。あなたの感想など、読者にとっては、実はどうでもいい。関心の矛先は、あなたの体験そのものにある。読者はあなたのコトバを読むことで、あなたの体験を追体験したがっている。あなたは読者にとって、いわばイケエエなのである。だから、あなたの、ちっぽけな正義感に燃えた提言より、あなたが嗅いだ匂いを伝えよう。あなたが聞いた音を伝えよう。車椅子に座ったあなたが浴びた視線を、読者に教えてやろう。

克明なメモは、ここで役立つのである。

## きたきりすずめ

になると、「クサイ」を通り越して、鼻と目が鋭く痛み出した。

服に染み付いたニオイは、新宿に戻る高速バスの中でも、周囲に漂っていたと思う。

五列ほど離れた席に、御殿場のアウトレットモールで仕入れてきたと思しきブランド品の紙バッグを抱えたお嬢さんたちが座っていた。彼女たちの鼻にこの「体臭」が届かないかと、気が気ではなかった。

ごみ問題も一挙に解決、といくはずだった。

地上七階建ての工場棟の中には、最新式の巨大なRDF製造装置が鎮座している。運転員はわずかに四人。すべてコンピューターで制御されたオートマチック工場なのだ。

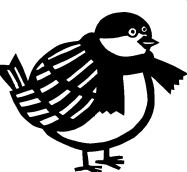
ところが、である。ものすごい臭気なのだ。案内してくれた運転員氏は、きっちりマスクをしていたが、こちらは「素」だ。

階段を上るにつれ、臭気はいつそう強まってくる。数十トンのごみをためた全階吹き抜け構造の「ごみ貯蔵ピット」を上から覗く段



「匂い」といえば、こんな経験がある。静岡岡御殿場市の近くにあるRDF製造工場を取材したときだ。

RDFというのは、Refuse Derived Fuelの略号で、「ごみ固形燃料」と訳されている。ごみをこの工場に集めて、粉碎し、混ぜ合わ



せ、高温・高圧でぎゅうぎゅう締め付けて、小指ほどの太さのチョーク状に固めたものだ。これを燃料として活用すれば、